



2種の有効成分を配合。
幅広い病害に有効で耐性菌がでにくい。
永年の実績と信頼のブランド。

殺菌剤

アグリマイシン®-100

®は日本曹達(株)の登録商標です。

1 耐性がつきにくい!

細菌に対して高い抗菌活性をもつ2種類の抗生物質オキシテトラサイクリン、ストレプトマイシンを効果的に配合した複合製剤です。これらの有効成分はともに細菌に対する作用点が異なるため、耐性がつきにくい製剤となっています。

2 抗菌範囲が広い!

それぞれ抗菌範囲が異なる2種類の有効成分を配合しているため、単剤よりも抗菌範囲が広い製剤となっています。

3 信頼のブランド!

1957年の上市以来、半世紀以上にわたって、多くの皆様に愛用されています。そのため、適用病害も多く、優れた効果が認められています。

4 定評の優れた抗菌力!

有効成分オキシテトラサイクリン(テラマイシン®)は、ファイザー社が人体用として開発した抗生物質です。現在でもさまざまな分野で利用されており、その優れた抗菌力は広く認知されています。



日本曹達株式会社

適用病害と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	オキシテトラサイクリンを含む農薬の総使用回数	ストレプトマイシンを含む農薬の総使用回数
りんご	枝枯細菌病	2000倍	200～700ℓ/10a	収穫60日前まで	3回以内	散布	3回以内	3回以内
なし				収穫75日前まで				
もも	せん孔細菌病	1500倍		収穫60日前まで	2回以内		3回以内	4回以内
うめ	かいよう病	1000倍		収穫90日前まで				
すもも	黒斑病	1500倍		収穫30日前まで	3回以内		3回以内	4回以内 (樹幹注入は1回以内)
キウイフルーツ	花腐細菌病 かいよう病	1000倍	100～300ℓ/10a	—				
ばれいしょ	疫病				40～100倍	種いも100kg当り 2.5～3ℓ	植付前	1回
	軟腐病	1000～1600倍						
キャベツ	黒腐病 黒斑細菌病	2000倍	100～300ℓ/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内	2回以内
はくさい	軟腐病 黒斑細菌病	1500～3000倍			3回以内		4回以内	3回以内
レタス	腐敗病				2000倍		2回以内	2回以内
たまねぎ	軟腐病	1000倍		収穫7日前まで	5回以内		5回以内	
にんにく	春腐病				3回以内		3回以内	3回以内
こんにゃく	葉枯病 腐敗病			250～500倍	収穫30日前まで	6回以内	6回以内 (種いも浸漬は1回以内)	6回以内 (種いもへの 処理は1回以内)
	腐敗病	—	植付前		—	1時間 種いも浸漬		
ほおずき	斑点細菌病	1000倍	100～300ℓ/10a	発病初期	3回以内	散布	3回以内	4回以内
シクラメン	葉腐細菌病		200～300ml/鉢	葉組み時 鉢上げ時 または鉢替え時	8回以内 (但し 土壌灌注は4回以内)		土壌灌注	8回以内
たばこ	野火病 角斑病	1500倍	100～180ℓ/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内	—
	吊り腐れ (空胴病菌による) 空胴病	1000～1500倍						
	疫病	1000倍						
桑	縮葉細菌病	500倍	200～700ℓ/10a	—	3回以内		3回以内	
西洋芝(ベントグラス) (生産圃場)	かさ枯病		0.5ℓ/m ²	発病前～発病初期	8回以内		8回以内	

△効果・被害等の注意事項

- 石灰硫黄合剤との混用はさけ、また、ボルドー液と混用する場合は、使用直前に混合してください。
- 本剤の使用により、葉害としてクロロシス(黄化現象)を生じることがあります。特に高温多湿時には葉害を生じやすいので、留意の上散布してください。
- はくさいにおいては、高温時又は幼苗期には葉害の影響が大きいので、この時期の使用はさけてください。
- ばれいしょの種いも消毒に使用する場合は下記の事項に注意してください。
 - ①萌芽後や種いも切断後の処理は葉害を生じるので、必ず萌芽前に種いもを切断せずに処理してください。特に植付後の地温の上昇が遅れた場合には、萌芽や生育遅延が助長されるので春先の気温の低い地域では注意してください。
 - ②浸漬処理の場合、浸漬時間が長くなったり、高濃度液に浸漬すると葉害を生じやすいので所定の浸漬時間及び希釈倍数を厳守してください。
 - ③散布の場合は、種いもを床等に十分に掘げ、種いも100kg当り2.5～3.0ℓの割合で種いも全体が均一にぬれるようにていねいに散布してください。
 - ④薬剤処理した種いもは長時間ぬれたままにしておくと発芽遅延等の葉害を生じるので、風通しのよい場所ですみやかに乾燥させてください。

- ⑤種いもを切断する場合は処理した薬液が十分乾いてから行なってください。
- ⑥薬剤処理した種いもは、食料又は飼料には使用しないでください。
- なし及びりんごに対しては、重複散布や多量散布は葉害を生じる場合があるので、所定の希釈倍数を厳守してください。
- たばこの角斑病に対しては、発生初期に時期を失ないように散布してください。
- シクラメンの葉腐細菌病に対する土壌灌注の使用液量は、直径15～20cmの鉢が基準であり、植木鉢の大きさにより適宜増減してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。

△安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 使用の際は防護マスク、不透性手袋、不透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用してください。作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。

- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけてください。
- 夏期高温時の使用をさけてください。
- 使用の際は使用に関係のない者が作業現場に近づかないよう配慮してください。
- かぶれ等を生じた場合には医師の手当を受けてください。

■水産動植物に対する注意

使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

■保管

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

2025年2月現在の登録内容に基づいています。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。

製造



日本曹達株式会社
東京都千代田区丸の内二丁目7番2号

販売



丸和バイオケミカル株式会社

■本社／〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-19-23
TEL03-5296-2314
■札幌／TEL011-222-1285 ■仙台／TEL022-261-1103
■名古屋／TEL052-951-7234 ■大阪／TEL06-6484-6850
■福岡／TEL092-714-7101
https://www.mbc-g.co.jp

お問い合わせ窓口／TEL 03-5962-9731 (9時～17時 土日祝を除く)